



〈慶讃テーマ〉

南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう

発行日:2023(令和5)年8月28日 第38号 発行者:飛騨御坊真宗教化センター長・高山別院輪番 三島多聞  
高山市鉄砲町6 TEL 0577-32-0776 web http://hidagobo.jp takayama@higashihonganji.or.jp

### 「帰敬式推進室」を設置—100年教化の基盤整備

今年度よりセンター内に「帰敬式推進室」を設置し、センター・組・寺院の連携のもと帰敬式の推進を図ります。

#### ■帰敬式—極めて重要な儀式

「真宗大谷派宗憲」では、大谷派の儀式を「法要式・得度式・帰敬式」の3つであると挙げています。また、門徒の任務として「すべて門徒は、帰敬式を受け…」と、帰敬式の受式が規定されており、ここに大谷派が、「帰敬式」を極めて重要な儀式であると認識していることを見ることが出来ます。

1996年、真宗同朋会運動の歩みとして「帰敬式実践運動」が始まりました。宗派の規定を整備し、この時から、住職・教会主管者でも所属寺院において帰敬式の執行が出来るようになりました。門首(鍵役)以外の者による執行が可能となる具体的な措置がとられたことは、他宗門も含め画期的な大改革でしたが、ここ近年の帰敬式受式者数については、残念なことに減少の一途をたどっています(全国の受式者数:2010年度/10,150人—2019年度/5,261人)。

その理由(コロナ感染症以外の)を知り得るような現況調査結果は見当たらないものの、宗教への嫌悪感の浸透、宗門離れ(帰属意識の喪失)、宗門や真宗僧侶の姿勢や意識など、思い当たることは列記できるのではないのでしょうか。また、「法名は死後に受けるもの」という認識が相変わらず根強いことも大きな問題です。

ただそれでも、帰敬式は、同朋会運動の中で確かめられた「真宗門徒の自覚と実践」の具体像の一つでもあり、死後に往生するという信仰理解から、現生の救いとして念仏を称える者となっていくことを促す帰依三宝、そして一味平等の名告りの儀式・法縁として、今日まで伝統されてきたことも事実なのでしょう。

#### ■帰敬式推進室設置—基本姿勢と実践課題

2020年の「飛騨御坊真宗教化センター」発足とともに、教化の三本柱の一つとして帰敬式が掲げられました。昨年度は、本山指定による「帰敬式法座」が実施されました。そして今年度(センター体制第2期)からは、帰敬式の所管を別院から飛騨御坊真宗教化センターに移管し、新たに「帰敬式推進室」を設置いたしました。

帰敬式推進室の中心業務は、高山別院における帰敬式の実施であり、その実行委員会となって実働していくことです。これは推進室委員のみではなく、各組から選出された実行委員を加え帰敬式の実施体制がとられます。大切なことは、帰敬式の実施に止まらず、実施に携わったことを通して、帰敬式、帰依三宝、共に仏弟子であることの学びを深めていくことです。この実働と学びを基礎として、他の帰敬式に関する諸事業にも取り組み、高山地区における帰敬式の推進を図ってまいります。その取り組みの意義は、以下の「基本姿勢」と「実践課題」の実を上げていくことにあります。

#### ＜基本姿勢(教区帰敬式実践運動推進計画より)＞

今後「100年教化」の礎を期して、帰敬式推進により「共に仏弟子である」ことを確認し、帰依三宝の精神が浸透・定着していくことを願い教化を進めていく。

- 帰敬式の推進を地道に継続し、飛騨地域の真宗文化の底上げとなることを目指す。
- 真宗同朋会運動の精神に立ち、「共に仏弟子である」ことの領きの場となるよう、住職と受式者の帰敬式を縁とした語らいの場を創造していく。
- 帰敬式推進の重要性をあらためて住職に認識していただき、執行の事前事後の研修の充実を図る。

#### ＜実践課題(帰敬式法座実施計画より)＞

- ① 僧侶及び受式者は、未受式の方に帰敬式の受式を呼び掛ける。
- ② それを通して、帰敬式は死後ではなく、存命中の受式が願われるものであることの認識が定着していくことを目指し取り組む。
- ③ 住職は授与した法名の意味を伝え、受式後の間法課題としていただくことが定着するよう取り組む。なお、未受式死亡者についても遺族に伝達説明する。
- ④ 帰敬式受式を通して、教区及び組、別院、各所属の寺院の法座への参加を促す流れを作る(特に所属寺院と別院報恩講参詣を帰敬式受式者の一年のけじめとする)。
- ⑤ 『ひだご坊』紙や各媒体により帰敬式の浸透及び受式奨励を行う。

#### ■「同朋ということの本来的意義の回復」と「死者供養・祖霊信仰からの解放」

宗派が提唱した「帰敬式実践運動」には主に2つの意義が掲げられています。それは「同朋ということの本来的意義の回復」と、「死者供養・祖霊信仰からの解放」です(『真宗』1996年4月号)。そこに真宗門徒の姿を見ることでありますが、そこから乖離してしまい生きる私たちに悲嘆する声に耳を傾けていくことが託されています。そのことが、帰敬式の受式を通して、「法名授与」(事前学習)と「お内仏のお給仕」(各組法座)について学ぶことから開かれていくような取り組みがなされていけばと願われることです。

飛騨御坊真宗教化センター長

三島 多聞



### ★センター・別院からのお知らせ★

#### 飛騨学場・暁天講座

8月1日から5日まで飛騨学場が開催されました。今年度はコロナ感染が5類に移行したこともあり、徐々に旧来の形に戻していくことで考えられ、1日には久々に寺族交流会が行われました。第一部では「同朋唱和」などをテーマに懇談会が、夜には第二部として懇親会が開催されました。なお、午後の施斎経については2日の1日のみとなり、昼食についても行われなかつたこととなりました。

講義については、1日から3日の本講には藤場俊基師に「仏教と相応する聞②〜『浄土論』『浄土論註』が開く世界〜」(2年目)をテーマに、4日と5日は尾角光美師(一般社団法人リヴオン代表理事)に「死別を支えるお寺の力」についてそれぞれご講義をいただきました。また暁天講座は、1日から5日の開催となりました。

#### 高山別院報恩講式支配を委嘱

このたび、高山別院報恩講の式支配に、澤邊恵秀氏(高山2組誓願寺前住職)と白尾公信氏(高山2組了心寺住職)が委嘱されました。今年度の報恩講から、儀式の執行をお願いしてまいります。

#### 秋季彼岸会(高山別院) 9月20日~26日

- |        |              |                      |
|--------|--------------|----------------------|
| 20日(水) | 光本智見氏(南春寺住職) | 悩む心と喜ぶ心—四十八願六神通から学ぶ— |
| 21日(木) | 帰雲真智氏(還來寺住職) | 枉(まが)れるわれらの帰(よ)りどころ  |
| 22日(金) | 小原正憲氏(専念寺住職) | 念仏成仏、これ真宗            |
| 23日(土) | 三島多聞(別院輪番)   | 意味ある人生               |
| 24日(日) | 夏野了氏(満成寺住職)  | 別離は避けられない            |
| 25日(月) | 窪田哲氏(圓徳寺前住職) | 念仏申すべきものな—り—         |
| 26日(火) | 小原宗成氏(圓龍寺住職) | お念仏申すということ           |

#### ごぼう夏のつどい—参加者80名を超える大盛況

7月28日(金)、「ごぼう夏のつどい〜飛騨御坊からの挑戦状〜」が行われた。午前の部、午後の部合わせて参加者80名を超え、大盛況となった。恒例の水合戦をはじめ、射的やストラックアウト、三輪車レースや念珠づくりといったさまざまな出し物で楽しんでもらった。また、アニメ仏典童話「シビ王物語」の上映とその内容についてのお話も行い、「いのち」について考えてもらう機会となった。



### 高山別院報恩講「帰敬式」受式者募集中

各ご寺院からのセンターへの申請締め切り【10月5日まで】。締め切り日厳守にてお願いします。必ず法名をご記入いただき、冥加金を添えて申請ください。

## 同朋唱和の軌跡を訪ねて一同朋唱和を考える糸口としての一考

### ■「文明版 三帖和讃并正信偈」開版 550 年

大谷派のお勤めの本と言えば「赤本」(『真宗大谷派勤行集』)です。この勤行本は昭和40年に発行され、これまでに数百万冊が頒布されています。同朋唱和と言えば宗門内では“赤本”となりますが、高山の御遠忌記念で発行された『正信偈同朋唱和集一現代語訳付』をよりお薦めするところです。

時代によって様々な形によりお勤めの本がつけられてきましたが、正信偈念仏和讃のお勤めということであれば、文明5年(1473年)3月に蓮如上人によって開版された、『文明版 三帖和讃并正信偈』が印刷物としては初めてのお勤めの本となるのでしょうか。この文明版のお勤めの本が出版発行されて、今年で550年を迎えました。この出版が、同朋唱和が浸透していく一つの起点となったと考えてもよいのではないかと思います。



### ■「立教開宗700年記念法要」の同朋唱和

「同朋唱和」という言葉については、ちょうど100年前の「立教開宗700年記念法要」の時に、法要次第とは別に御影堂で僧俗ともに正信偈のお勤めがされたことについて使われており、これが初出であろうと言われています。しかし、みんなで一緒にお勤めする同朋唱和は、本山以外の寺院や各地

のお講などでは古くから行われてきており、この時、ようやく本山において、正式な法要次第ではない形で、座を分けて行うことを許したということなのでしょう。それでも大きな一歩であったことは察せられます。

それで、本山において正式に同朋唱和が御影堂のお勤めの形として定められたのが、昭和38年2月で、この時から晨朝のお勤めが同朋唱和となったということです。ですから、本山での儀式において同朋唱和が正式に定められ行われるようになってから、今年で60年ということになります。ただ本山以外の場所では、同朋唱和を前提としたお勤めや儀式が出来るよう、すでに「同朋奉讃」や「昭和法要式」が制定されてはいました。

### ■道場の勤行—正信偈和讃

東本願寺出版発行の『キリシタンが見た真宗』に興味深い記載があります。

山科本願寺の本堂では、毎朝百人近くの人々が集まっています。僧侶はもちろんのこと、子供から老人にいたるまで、様々なものが集まり、「正信偈」「和讃」を勤めていたということです。

(『本願寺作法之次第』実悟編より)

早朝より、御堂には勤行と念仏の音が溢れていた様子がうかがえますが、フロイスの報告によって、同様のことが、全国の末寺や道場でも行われていたらしいことがうかがわれます。参拝者は大人から子供まで分け隔てなく真宗の聖教に接し、拝読することが出来たので

す。室町時代、山科本願寺や寺院・道場では同朋唱和がすでに行われていたようです。今日、大谷派の声明は「聞く声明」だとも言われますが、歴史的にはどうやらそれだけではなかったようです。

安田理深先生が、以下のような言葉を残されています。

「正信偈」は、単に読むだけでなく偈文という形によられたのは、リズムに従って歌うという形で読むという思召しがあったのではないかと。(中略)特に経の読誦でなしに、「正信偈」ならびに和讃は、道場の勤行(寺院の勤行と区別して)を代表するものではないかと思う。

(『正信偈講義』第1巻)

今は数も減ってきましたが、各地域に開かれた道場では、僧侶ではなく普段は「毛坊主」だとか「道場坊」と言われる人が仕事を休んでいました。そして、その地域の者が道場を守り道場を運営してきました。報恩講では、お斎の材料を持ち寄って準備し、いっしょに“おしょうばんにあづか”り、聖人と共にある絆を深めてきました。そして皆でいっしょにお勤めをします。正信偈和讃を一緒にお勤めすることが、こういった道場と言われる場で行われて真宗の土壌が形成され、それが本山の儀式へも影響を及ぼしたものと考えます。

### ■同朋唱和を考える糸口

コロナ感染の蔓延によって、同朋唱和の危機を感じ取った人は多いと思います。こういう時だからこそ、改めて同朋唱和の意義や背景を考え確かめていく時を迎えていると言えるのではないのでしょうか。その糸口はひよっとすると、家庭のお内仏に置いてある、手垢で汚れ、めくりぐせがついたお勤めの本にあたりするのかもしれない。

飛騨御坊真宗教化センター  
耳なれずめ



※ 次回は、飛騨学場中に行われた寺族懇談会での「同朋唱和」について話し合われた内容を掲載いたします。

### 飛騨御坊ホームページ『ひだご坊一口法話』9月

北條 秀樹氏 (高山1組了泉寺住職)  
細川 宗徳氏 (高山1組蓮乗寺住職)



※印刷したものの郵送をご希望の方は、教務支所までご一報ください。

### 平田彩美 教務支所新任職員 ご挨拶

8月より、高山教務支所でお世話になっております。実家は、高山別院の目の前にあり、幼いころはよく別院で遊んでいました。そんな思い出のある地で働くことになるのは、自分でも驚いています。分からない事ばかりですが、頑張っていきたいと思っております。顔を見たらぜひお声がけください! よろしくお願ひ致します。



## 飛騨御坊真宗教化センター・高山別院 2023年9月行事予定

日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院・教区・組	会場			
1	金				17	日						
2	土	14:30	教 朝日高根組巡回	朝日支所	18	月	7:00	別 一日華				
3	日	13:00	別 三日のご坊 法話:佐藤義晃氏(了徳寺住職)	本堂	19	火						
4	月				20	水	13:00	別 彼岸会 法話:光本智見氏(南春寺住職)	本堂			
5	火	7:00	別 半日華		21	木	13:00	別 彼岸会 法話:帰雲真智氏(還來寺住職)	本堂			
6	水				22	金	13:00	別 彼岸会 法話:小原正憲氏(専念寺住職)	本堂 了徳寺			
7	木	15:00	教 解放推進協議会 常任委員会		23	土	13:00 15:30	別 彼岸会 法話:三島多聞氏(別院輪番) 教 清見組巡回	本堂			
8	金				24	日	13:00	別 彼岸会 法話:夏野 了氏(満成寺住職)	本堂			
9	土				25	月	13:00	別 彼岸会 法話:窪田 哲氏(圓徳寺前任住職)	本堂			
10	日	13:00	別 納骨経	本堂	26	火	13:00	別 彼岸会 法話:小原宗成氏(圓龍寺住職)	本堂			
11	月	13:00	別 大谷婦人会定例 法話:三島多聞氏(輪番)	御坊会館	27	水	13:00	別 親鸞聖人お逮夜	本堂			
12	火	14:00	教 育成部会正副幹事会		28	木	13:00	別 親鸞聖人御命日 法話:上清水信男氏(西蓮寺衆徒)	本堂			
13	水	7:00 13:30	別 前住上人ご命日 組 高山2組 組会	本堂 研修室	29	金						
14	木	13:00 16:00	教 吉城組巡回 教 益田組巡回	誓願寺 桂林教会	30	土						
15	金				2023年10月 ※15日ごろまでの掲載とし、定例行事は省きます。							
16	土				日	曜	時間	ご坊センター・高山別院	日	曜	時間	ご坊センター・高山別院
					5	木		七 帰敬式申込 センター締切	13	金	19:00	組 高山2組組会